

## 2017 年度第 1 回「町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン」検討委員会会議録要旨

### 【会議日時及び場所】

日 時 2017 年 8 月 2 日（水） 14：00～15：30

場 所 町田市役所 2 階 2-2 会議室

### 【出席者】（敬称略）

#### ■委員

凶司 直也（委員長）、柳沢 厚（副委員長）、中丸 康明、市川 孝、田中 英夫、山崎 凱史、岸 由二、宇野 俊輔、尾留川 朗、宮下 徹

#### ■事務局

荻原北部丘陵担当部長、北部丘陵整備課小林課長、中川担当係長、福田担当係長、澤潟主任、浅場主事

#### ■傍聴者（定員 5 名）

無し

### 【資料】

次第

（資料 1）町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン検討委員会設置要綱

（資料 2）委員名簿

（資料 3）「町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン」の進捗状況について

### 【議事要旨】

- ・新委員紹介、委員長・副委員長の選出を行った。
- ・事務局より今年度以降の検討委員会の開催趣旨、北部丘陵地域での事業の進捗状況等を説明した。
- ・委員より質疑応答を受け、意見交換を行った。

### 【会議内容】

#### 1 開会あいさつ

経済観光部北部丘陵担当部長より挨拶

#### 2 新委員紹介

#### 3 委員長・副委員長の選出

#### 4 委員長・副委員長あいさつ

#### 5 議事

（説明）

- ・「町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン」の進捗状況について、（資料 3）に基づいて事務局から説明

（意見交換）

- ・各委員から意見

#### ■意見等

### 【配布資料に対する質問、進め方】

（委員）

- ・町田市北部丘陵活性化計画アクションプランは町田市北部丘陵活性化計画に基づいて策定されたものなので、そもそも内容に不満がある。町田市北部丘陵活性化計画の内容を地域に役立つ

ように見直せば、現状を改善しもっと事業も進むはずである。

(事務局)

- ・町田市北部丘陵活性化計画アクションプランが始まってまだ4か月の時期なので、今回の検討委員会は主に進捗状況を確認し、協議するのが目的である。町田市北部丘陵活性化計画の改定は2020年度の予定。2018年度までに課題抽出を行う予定なので、次回以降にご意見を頂きたい。

(委員)

- ・進捗確認シート上では、地元住民へヒアリングを行い、町田市北部丘陵活性化計画アクションプランの計画通り進んでいるとのことだが、どのような意見が出たのか今まで聞いていない。地元住民へヒアリングを行う際には、地域を代表して本検討委員会に出席している委員には、事前に誰に意見を聞くか伝えて欲しい。一緒に聞くこともできるので連絡もして欲しい。

(事務局)

- ・今のところ30人程にヒアリングを行っており、2017年内には100人程を目指している。各地域でもし候補者がいるならば紹介して頂きたい。

(委員)

- ・生活道路については、なぜ(資料3の)事業番号11に都道155号線以外が入っていないのか。都道155号線は東京都の事業であり、町田市の予算で行うのはおかしい。また、都市計画道路町田3・4・40号線の用地取得が進んでいない。市道忠生579号線についても、ゴミの資源化施設には必要なはずである。

(事務局)

- ・事業番号11の生活道路について、他の項目についても同じだが、行っている事業の全ては記載できないため、指標に掲げられている事業を記載している。都道155号線については、都道ではあるが、市道として重複認定をして進めていきたい。その他の生活道路については、北部丘陵整備課が仲立ちして、道路部と調整しながら進めていきたい。ただし、始めに地元の合意が必要であり、現状では地元の合意後も整備には相当な時間が必要である。要望は市で認識している。

(委員)

- ・推進事業14の里山の景観を楽しむ散策コースの整備で、野中谷戸の笹原があるところを残すのかなど、調整が必要なのでコースを決定する前に知らせて欲しい。眺望点のイメージは、共有できている。
- ・田中谷戸の源源流と言われているところは、水土砂災害の危険度の高い地域となっていて、都の担当者と打ち合わせを行っている。川崎水道のトンネルが地下を通っているが、周辺の土砂が崩壊し陥没してしまっている。地元の人も気付いていないようだが、これはどこに言えばよいのか。私は町田市が対応してくれたらよいと思っている。鶴見川の源源流が危険な

のは、急傾斜地の崩壊ではなく、集水域での河道閉塞である。心配して西の窪で竹を切ったが、私有地は手がつけられない。ヒューム管で水を集めているが、河道閉塞が起こったら、土砂ダムができてしまい、湖となる。それが決壊し一気に流れると土石流となり危険である。国の専門委員会の委員であるため、わからなかったら対応する。

- ・都道 155 号線の直角に曲がるあたりの線形は市で検討しているのか。

(事務局)

- ・散策コースについては、情報共有を図って進めていく。
- ・源源流の危険箇所については、現地を確認する。
- ・都道 155 号線は、道路中心から両側拡幅が原則である。ただし、連続して直角に曲がる箇所には、道路整備の基準があるので、現道をそのまま拡幅すればいいという訳にはいかない。また、路線としてどこまで都道 155 号線を整備するのか検討しなければならない。

(委員)

- ・市道の認定は議会案件であるのか。市道認定されないと、地方財政法上事業着手できないので、測量予算は計上できない。

(事務局)

- ・議会案件である。今は整備に向けた初期段階であり、測量の地元合意が得られたところである。拡幅幅員も決まっていない。重複認定については、手順を追って進めていきたい。

(委員)

- ・町田市北部丘陵活性化計画アクションプランは、できることから地域からの提案型で行うべきである。

(委員)

- ・進捗状況欄（資料 3）の評価について、農業研修事業は遅れているのではなく、これからリカバリーするためにどうするのか記載するべきである。また余裕率をみて考えるなど、指標の見直しも必要。次年度以降はどうするのか記載するべきである。
- ・忠生 630 号線に関しても、完了年度を変更したので実施計画も変更する必要があるのではないか。

(副委員長)

- ・進捗状況の評価は、指標に到達したかどうかだけではなく、何をやって、どのようになったのか、背景である取組みも評価の大切な要因だと思う。
- ・土砂災害の話は、最近の状況を考えるとリアリティがある。土砂災害などは、どこが受け皿になっているのか。

(委員)

- ・ 水土砂災害の責任者は東京都であり、都が危険判定をしている。都も指標がなく困っている。国も指標をつくるにあたり、市や都から情報提供されたほうが動ける。源流ネットが約40haを管理しているが、源源流は民間団体で扱うべきところではない。ヒューム管をはずして側溝に替えれば、水をもっと処理できるようになり河道閉塞は起こりにくくなる。都や市の下水道部が動くように、北部丘陵整備課に調整してもらいたい。

(委員長)

- ・ 地域の皆さんとの関係や町内会との接続が必要である。ヒアリングなど、現場で動いている様子は、事前か事後に共有するべきである。また、進捗状況の共有がこの検討委員会だけでは不足である。個別の動きは、細めに情報共有をして欲しい。
- ・ P D C Aの回し方についても、進捗状況の評価の仕方を改善志向で出すべきである。アクションプランの進捗チェックの意味合いが強くなるが、別立てて新活性化計画の策定に向けて進めるといふのであれば、混乱しないように、どのように委員が意見を挙げ、それを整理していくのか、事務局で検討して欲しい。アクションプラン計画の見直しと、全体の活性化計画の改定との関係性を整理して、委員に示すべきである。

(委員)

- ・ 検討委員会の時間が短い、そして回数も少ない。

(委員)

- ・ 事務局が事業の進捗をはかるだけではなく、現在事業を担っている団体がどのように思っているのか、定例の検討会の時か臨時の検討委員会を開き、聞くべきである。

(委員)

- ・ 計画に実施主体として NPO 法人等が入っているが、団体名の記載がない。その人達が進捗を理解し、共同して進めているという状況を見えるようにして欲しい。

(事務局)

- ・ 検討委員会を増やすかどうかについては、事務局で検討を行う。

【その他】

(事務局)

- ・ 第2回検討委員会は、2月15日(木)に開催したい。

以上